

➡ 推奨ルート



出津板羽目堰(昭和10年代)



徳川義軍の墓(出津共有墓地)



養老神社 海苔種付高さ基準標



五井

総距離 約2.8km(移動時間のみで約85分)



房総往還(大正末～昭和初期)



五井大市(昭和40年)



御座目浅間神社古墳
猪形・鹿形埴輪

水神社



御蔭目浅間神社古墳





GI-04 龍善院

真言宗豊山派の寺院で、大宮山八大寺龍善院といいます。開基は不詳ですが大宮神社の別当寺を務めた古刹です。大宮神社の記録には、村内地蔵院消滅の際に神社境内に住んだ修験者の龍善院を取り立て、修験堂を寺院にしたといいます。境内等には元禄年間の一石六地蔵や五井町諸匠供養塔、市原郡八十八ヶ所札所八十四番の石碑、五井町馬車組合の馬頭観世音菩薩の碑があります。



GI-07 養老神社

創建年代は不詳ですが、康安年間に再建、さらに天正2年(1574)に社殿が新造されたと伝わります。嘉永年間(1848～1854)には国学者平田鉄胤(かねたね)より「養老神社」の額が揮毫され、文久2年(1862)に神祇官神祇伯社殿にて認められ養老神社と称しました。境内には、海苔の網簀(あみひび)を張る高さの基準「海苔種付高サ基準標」や、富士講の一派山包講による富士塚があります。



GI-05 若宮八幡神社

貞観年間に大佐佐氣命を祀って創立し、源頼朝が鎌倉への途次、千葉常胤の一族が迎えて戦勝祈願をしたと伝えられます。八幡様の名で親しまれ、現在の本殿は大正期に、拝殿は昭和63年に改築されました。社殿の彫刻は弘化4年(1847)に伊勢参りの同行30人が奉納したもので、亀戸の彫工長坂政右衛門恒教の名が刻まれています。境内には浅間大神の碑が建つ富士塚があります。



GI-06 富貴稲荷神社

享保13年(1728)に領主有馬氏の代官が江戸から勧請したと伝えられます。この地は江戸と養老川をつなぐ水運の拠点として栄え、富をもたらず稲荷様は、地元民ならず関西漁民等の移住者からも信仰されました。社殿の見事な彫刻は文政期の社殿再建時のものと考えられます。境内には、宝暦4年(1754)の手水石や富士講の一派山包講により造立された文化7年(1810)銘の常夜灯等があります。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合もあります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちばらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 Tel.0436-41-9344 Fax.0436-42-0133

令和4年3月 第1版第1刷発行

I Museum Field

五井



東京湾や養老川の水運と、江戸・久留里への交通の要衝として栄えてきた五井エリア。塩や海苔づくりの盛んな時代の面影と、祭礼や大市の賑わいが息づき、経済と文化の中心地として今も発展し続けています。

I Museum



GI-01 小湊鉄道機関車

小湊鉄道は当初、五井から外房小湊の誕生寺まで参詣者を運ぶために開業しました。3両のうち2両はアメリカのボールドウィン社から輸入された6輪連結10輪タンク機関車で、大正14年の開業から昭和38年まで使われました。もう1両はイギリスのペイヤー・ピーコック社から日本鉄道が輸入した4輪連結10輪タンク機関車で、昭和21年から同25年まで小湊鉄道で使われました。



GI-02 大宮神社

社伝によると日本武尊の東征の時に創祀され、源頼朝が安房から上総を東上の際、奉幣・祈願を行ったとされます。天文年間(1532～1555)には北条氏が戦勝を祈り太刀を奉納したと伝わります。江戸時代以降は旗本松平氏・神尾氏、領主有馬氏の崇敬を受け、開運や農漁業の守護神として広く民衆の信仰も集めています。秋季例祭では、上宿・下宿・新田の3地区の山車や神輿渡御で賑わいます。



GI-03 庚申塔・道標

五井新田・下宿2号公園にある文化4年(1807)の庚申塔、かつては北東方面に50m程の交差点にありました。この地点は、木更津方面に続く房総往還と、君津の久留里城下に向かう久留里街道との分岐点に位置し、久留里街道起点の道標として重要な意味がありました。下宿の庚申塔として正面に青面金剛を浮き彫りにし、下に「江戸道」、左側面に「具流里(くるり)ミチ」と刻まれています。